

定数ごとの議員1人当たり人口、議会費に占める割合等

部会資料2

		定数パターン 提案会派				
		49人 ----- 5人減	50人 ----- 4人減	51人 ----- 3人減	55人 ----- 1人増	現状(参考)
提案会派名		自民党、みんなの党	公明党、未来創造ちば	公明党	共産党	—
増減内訳		中央△1 花見川△2 稲毛△1 若葉△1	中央△1 花見川△1 稲毛△1 若葉△1	中央△1 花見川△1 稲毛△1 若葉△1 緑1	緑1	現状のまま
議員1人当たり人口/ 1票の格差	平成22年 国勢調査 確報人口 (961,749人)	19,628人 ----- 1.083	19,235人 ----- 1.123	18,858人 ----- 1.145	17,486人 ----- 1.141	17,810人 ----- 1.235
	平成25年 1月1日 推計人口 (963,682人)	19,667人 ----- 1.117	19,274人 ----- 1.123	18,896人 ----- 1.123	17,521人 ----- 1.144	17,846人 ----- 1.278
	常任委員会の常任委員数	4委員会⇒10人 1委員会⇒9人	10人	10人(議長を除く)	11人	4委員会⇒11人 1委員会⇒10人
	議会費に占める議員関係経費の割合 ※	70.4%	71.8%	73.2%	79.0%	77.6%
提案理由 メリット		1票の格差が最小である。	常任委員数を偶数かつ同数とし、委員長裁決を回避できる。 緑区は議員1人当たり人口が2万人超であるが、選出議員は市民意見を市政に反映できているので、この定数でも対応可能。	議長は中立な立場であることから、常任委員会には属さず、また常任委員数を偶数とすることで、委員長裁決を回避できる。	市民の声を反映するためには、現在の54人では不十分であり、緑区の1増が必要。	
デメリット		現状の定数に比べ、市民の意見が届きにくくなるとともに、行政のチェックが機能しづらくなる。	現状の定数に比べ、市民の意見が届きにくくなるとともに、行政のチェックが機能しづらくなる。	現状の定数に比べ、市民の意見が届きにくくなるとともに、行政のチェックが機能しづらくなる。	定数増とすることは市民理解を得にくい。 議会費に占める議員関係経費の割合が高くなる。	

※25年度予算額(1,431,734千円)、議員関係経費は1人当たり20,562千円(報酬、期末手当、共済費、委員会旅費、政務活動費の合計)により算出